会 議 記 録			
会 議 の 名 称	決 算 特 別 委 員 会 産 業 建 設 分 科 会		会 議 場 所 第 2 委 員 会 室、 全 員 協 議 会 室
			担 当 職 員 佐 藤
日 時	令 和 3 年 9 月 1 6 日 (木 曜 日)	開 議	午 前 1 0 時 0 0 分
		閉 議	午 後 3 時 4 7 分
出 席 委 員	◎ 赤 坂、○ 奥 野、田 中、小 川、藤 本、木 曾、菱 田、(福 井 議 長)		
出 席 理 事 者	【 産 業 観 光 部 】 由 良 部 長 [商 工 観 光 課] 三 宅 課 長、元 古 副 課 長、橋 本 主 幹、松 浦 観 光 振 興 係 長 [農 林 振 興 課] 松 本 課 長、森 宮 農 推 進 係 長、佐 藤 担 手 支 援 係 長、 荒 美 食 農 ブ ラ ン ド 係 長、和 田 林 務・鳥 獣 対 策 係 主 査 [農 地 整 備 課] 並 河 課 長、小 西 副 課 長 [農 業 委 員 会 事 務 局] 吉 田 事 務 局 長		
出 席 事 務 局	山 内 事 務 局 長、加 藤 副 課 長、佐 藤 主 任		
傍 聴 者	市 民 0 名	報 道 関 係 者 0 名	議 員 0 名

会 議 の 概 要

1 0 : 0 0

- 1 開 議 (委 員 長 あ い さ つ)
- 2 事 務 局 日 程 説 明
- 3 付 託 議 案 審 査 (説 明 ~ 質 疑)

[産 業 観 光 部 入 室]

- ・ 産 業 観 光 部 長 あ い さ つ

◎ 第 1 1 号 議 案 令 和 2 年 度 亀 岡 市 一 般 会 計 決 算 認 定 (産 業 観 光 部 所 管 分)
(2 款 総 務 費 ・ 6 款 農 林 水 産 業 費 ・ 1 1 款 災 害 復 旧 費)

[説 明]

- ・ 産 業 観 光 部 所 管 課 長 順 次 説 明 (歳 出 歳 入 一 括)

1 1 : 1 0

《 質 疑 》

< 赤 坂 委 員 長 >

1 5 9 ページまでで質疑はあるか。

< 小 川 委 員 >

都 市 ・ 農 村 交 流 事 業 経 費 の 亀 岡 農 産 物 の 新 し い 魅 せ 方 提 案 業 務 委 託 は、ど こ に 委 託 し た の か。

< 農 林 振 興 課 長 >

か め お か 霧 の 芸 術 祭 実 行 委 員 会 に 委 託 し た も の で あ る。

< 田 中 委 員 >

亀 岡 農 産 物 の 新 し い 魅 せ 方 提 案 業 務 委 託 は、こ の 提 案 が あ っ て、ど の よ う に 成

果が現れたのか。

<農林振興課長>

かめおか霧の芸術祭と連携する中で、地元で特に、オーガニック野菜に取り組んでいただいている方を初めとして、新規就農者も、そのような形でいろいろなイベントに出ることによって、オーガニック野菜を、広くPRできたり、また、冊子等をつくらせていただいて、新規就農者のPRが十分でき、研修することができたのではないかと感じている。

<赤坂委員長>

160～165ページまでで質疑はあるか。

<小川委員>

地域営農担い手条件整備事業経費の「京の米」生産イノベーション事業補助金が、当初予算に比べて大分多くなったがなぜか。

<農林振興課長>

当初予算から補正予算がどのくらいあったか把握できていないが、基本的にはこのメニューに沿った形の中で、このようなところで取り組みたいと手を挙げていただいた中で、当初予算を組ませていただいている。振替やメニューの変更があるので、予算と決算では若干違っていると思う。今回追加させていただいたのは、株式会社メイドイン京都のコンバインや天川農機具管理組合の乾燥機3台、もみすり機1台について、予算を流用させていただいた。

<木曾委員>

集落・企業連携支援事業補助金はどこの企業に補助したのか。

<農林振興課長>

このメニューについては、複数集落が取り組む事業で、企業連携という形も含まれているが、農事組合法人吉田の農業用倉庫160平米に1,000万円の10分の10の補助金を出したところである。企業連携については、担当係長から説明させる。

<農林振興課担い手支援係長>

この事業については、集落と集落の連携、もしくは集落と企業の連携、どちらかで取り組むメニューとなっており、今回は吉田中と吉田東の集落連携ということで取り組みいただいたところである。

<赤坂委員長>

いつも担い手の問題が出てくるが、中身が全然分からない。同じような形でずっとやられているが、どうしていききたいのかが見えない。担い手や農業に対してどうしていききたいのか。

<農林振興課長>

京力農場プランというものを各集落で今作成いただいております、各地域で今後の集落営農や担い手の位置づけなど、どのような形で取り組んでいくのかというものをつくっていただいて、実質化していくという作業を現在させてもらっている。やはり集落の実情に応じた取組を支援していく必要があると思うので、京力農場プランで位置づけられた今後の集落営農であったり、その地域に担い手がおられるのか、実質今後の農業については、貸したい人ばかりが出るのか等、具体的に十分地域の事情を把握していきたいと思っている。そうした中で、亀岡市としてどのような展開ができるのか、また、京都府のほうにどのような支援要望ができるのかというところを国や京都府に要求し

ていきたいと考えている。

<木曾委員>

担い手を育てていって、結局大規模の農業を推進するための担い手をつくるのか、それとも、兼業農家も含めて、担い手を育てようとしているのか、それとも、京野菜や米等のコアな部分の担い手を育てようとしているのか、もう一つ見えない。今、実際に圃場整備をやられているが、担い手を本当に育てられるのか不安定な状況にあると思う。既に馬路町等で圃場整備は済んでいるが、農業ができないということで、田んぼを手放しておられるところがたくさんあると聞いている。一定の方向づけをしっかりと示して、担い手の育成につなげているのか。

<農林振興課長>

今年度、亀岡市元気農業プランの改定の年であり、第5次亀岡市総合計画を反映させたプランをこれまでの事業成果を見せてもらいながら、新たなものをつくっていかうとしている。今、おっしゃった、各地域の実情に合わせて、集落営農型でいくのか、担い手でいくのか、いろいろ考えられるし、現に新規就農された方が、どのようなものがやりたいかというのは、人それぞれによって全く違うので、それによって補助金のメニューも大分変わってくる。そうした方向性をしっかりと亀岡市元気農業プランで押さえていきたいと思っている。

<木曾委員>

吉川町では、耕作ができない状況になった場合には、預けるということをやっていると聞いているので、そのようになれば、耕作放棄地もなくなっていくし、うまくスムーズに流れていくと思う。そういう方向に持っていけない限り、なかなか難しいと思う。どんどんと耕作者が高齢化していくので、75歳以上がほとんどになってくると思われるぐらいに厳しい状況になってくる。若い人が少ないので、担い手は本当に大事である。しっかりと支援策をとっていただいて、どのような方向で支援するのかということを確認にしていけることが大事であると思うがどうか。

<農林振興課長>

農地を預かって、お米を作って販売していくのは、お米の値段が下がってきているので、厳しいと思われる。最近では、農作業受託組合的な、作業受託だけをして、管理はその農家の方にしてもらうというような形があるが、やはり農業者が高齢になられたときに、農地を何とか預かってほしいということで、特に京都府の農業会議では、中間管理機構という部分で、農地の貸手と借手のマッチングをやっていただいているので、そうしたところで特に新規就農を含めた担い手をつくっていきたいと考えている。

<木曾委員>

うまくコミュニケーションをとりながら、どの方向で行くのかしっかりと示してあげなければ、新規就農の方も育っていくのが難しいと思うがどうか。

<農林振興課長>

新規就農の方はそれぞれやりたいことがあるので、農地を集約化して借りたいが、貸してもらえる土地がばらばらであったり、効率的でないような農地の使い方をされているので、そのような土地をできるだけ集約化することが、新規就農の支援になると考えるので、十分にサポートしていきたいと思って

いる。

<田中委員>

経営所得安定対策事務経費の1行目に「米穀の需要調整」とあるが、需要というのは消費する側なので、市であれば生産する側なので、「生産調整」と表現するほうがよいのではないのか。この経営安定対策で消費についてどのような調整をするのか。また、成果・実績の目標面積に対して、作付面積が約100ヘクタール少ないが、この100ヘクタールは本当に米以外の農作物が全て作られたのか。管理だけというようなところも結構あると思うがどうか。

<農林振興課長>

以前までは「米穀の生産調整」という言い方をしていたが、国の施策が、「需要調整」という形になっていて、今までは強制的に「これだけしか作ってはいけない」という部分が、「目標」というような形に変わってきているからだと考えている。また、川東地域では、転作作物として、麦などをブロックローテーションの集団転作で、大きくやっていただいているので、そういった意味で、目標面積と作付面積に開きがあると考えている。

<菱田委員>

曾我部町では、まる曾玉ねぎの栽培について、いろいろな補助事業を受けたり、機械導入されたりしていると思うが、令和2年度で、亀岡市を通じてどのような補助があったのか。

<農林振興課担い手支援係長>

曾我部町の玉ねぎの生産振興については、亀岡市地域水田農業活性化協議会をつくられており、そこへ府直裁という形で補助が3年間入っていた。補助金のルート上、亀岡市は通らなかったが、事務局等として支援させていただいたところである。

<赤坂委員長>

166～168ページまでで質疑はあるか。

(質疑なし)

<赤坂委員長>

169～173ページまで質疑はあるか。

<木曾委員>

鳥獣対策事業経費について、捕獲実績に熊は入っていないのか。

<農林振興課長>

熊については、目撃の頭数は増えているが、実際におりを設置しても捕獲できていないのが現状である。熊は行動範囲が広いので、最近も篠町山本区におりを設置したが、過去4年間で1頭捕れたぐらいで、昨年については捕獲の実績はない。

<木曾委員>

篠町山本区だけではなく、篠町王子区等でも目撃情報があるので、早急におりを設置して被害を防止していただきたいし、熊に対する脅し等の対策を取っていただきたいと思うがどうか。

<農林振興課長>

亀岡猟友会と十分協議する中で、対策を考えていく。

<田中委員>

狩猟講習会受講補助金が出ているが、何名分か。

<農林振興課長>

2名分である。

<田中委員>

亀岡猟友会も高齢化が進んでおり、新たに狩猟免許を取る人は少ない思うが、亀岡猟友会に対する育成という考えはあるのか。

<農林振興課長>

亀岡猟友会では、そうした取組もされているが、実際はかなり高齢化しており、若い方が狩猟や銃というようなところで、なかなか入ってきていただけないのが現状だと思っている。亀岡猟友会とどのような対策が取れるのか十分詰めていきたいと思っている。

<田中委員>

要望であるが、捕獲の助成金をもう少し増やしてやっていただきたい。府から入ってきてそのままだと思うので、市の負担分を上乗せしていただくように要望しておく。

<農林振興課長>

十分効果的な予算の使い方を、来年度当初予算で検討していきたいと思う。

<木曾委員>

森林活用推進事業経費の里山景観整備業務委託料について、かめおか霧のテラスの何に使ったのか。

<農林振興課長>

里山景観整備業務委託料については、下矢田町一帯で桜や紅葉の保全をさせてもらったのと、篠町内の林道、松尾谷線と西長尾線の維持、景観補修をさせていただいている。その一部にかめおか霧のテラスの塗装補修をしてもらった。

<木曾委員>

予算の使い方に一貫性がないと思う。観光で整備するのか、景観でするのか、里山でするのか、あっちもこっちも手をつけて、とれる予算でやっていくようなことでは駄目だと思う。費用は幾らかかったのか。一貫性を持ってやればよいのに、なぜ里山整備でやるのか。それならば、長尾山の保全を篠町でボランティアみたいな形で一生懸命やってもらっているのだから、そのようなことにもっと補助金を出していただいて、もっとあそこを市民が散策できるように整備していただきたいし、霧を見るテラスのためではなく補助金を活用していただきたい。予算を集約してやってもらいたいと思うがどうか。

<産業観光部長>

かめおか霧のテラスの整備は農林振興課で実施したので、その関係で塗装したところである。商工観光課とは同じ部内であるので、よりよい予算の使い方を相談していきたいと考える。

<藤本委員>

畜産振興関係経費の亀岡市食肉センターについて、せっかく亀岡牛が賞をとって、特産品になってきているのに、冷蔵庫の改修等、部分、部分の改修ばかりであるので、亀岡市食肉センター自体の全面的な改善改修を行って、生産の安定供給をしていかなければならないと考えるがどうか。

<農林振興課長>

基本的には、亀岡市の施設を新たに建て替えるとなると難しいので、特に、設

置している大型の器具が20年を経過してきており、老朽化して、当初の役割を果たしていない状況なので、改修を計画的にさせていただいているところである。亀岡牛であるが、屠畜能力でいえば、まだもう少し余力はあるが、一定の基準を満たす亀岡牛としての牛を飼っていただくところが、もういっぱい、いっぱいの状況になってきている。全体の亀岡牛としての販売数にしては、やっぱり肥育牛を増やしていかないとなかなか亀岡牛が増えてこないで、いろいろと協議させていただいているような状況である。

<赤坂委員長>

かめおか霧のテラスの塗装の経費は幾らか。

<農林振興課長>

47万円ほどである。

<奥野委員>

鳥獣対策事業経費について、捕獲した有害鳥獣の処分はどのように行っているのか。

<農林振興課長>

有害鳥獣駆除業務委託料の中に大型鳥獣の処理を入れさせていただいている。また、大型獣処分補助金は、集落で直接処分していただいた場合に、処分料を出させてもらっているのと、亀岡猟友会に委託するので、その中で処分費を算定させてもらっているが、大型獣は償却できないのでほとんど山に埋めることになる。全てではないが、埋める処分費を含めて1頭当たり幾らというような形で出させてもらっている。

<赤坂委員長>

183・184ページで質疑はあるか。

<木曾委員>

令和2年7月豪雨災害測量設計業務委託について、復旧は実施されているのか、それとも設計が終わって、まだこれから発注をかけていく段階なのか。災害復旧であるので、早く実施しなければ、また同じことを繰り返すと思うがどうなのか。

<農林振興課長>

3か所あるが、全て令和3年8月に実施して、完成しており、現在は完成検査を実施する状況である。

<菱田委員>

林道長尾山線災害復旧工事費について、先ほど説明で10メートルと言われたが、経費が1,100万円余りかかっている。どのような工事をされたのか、概略を聞かせていただきたい。

<農林振興課林務・鳥獣対策係主査>

林道橋の架け替え工事で、橋梁体をそのままごそっと変えたような形になる。

<藤本委員>

木製丸太遊具制作設置について、1か所だけではなく、計画的にもう少し拡張して取り組む計画はないのか。

<農林振興課長>

今年度、亀岡市ではウッドスタート宣言をして、木育や木に触れていただくような取組を進めていこうと思っている。森林環境譲与税等をうまく活用して、そうした取組を行っていきたいと考えており、新年度予算に計上させていた

だきたくので、御審議をお願いする。また月例の常任委員会でもそういった動きを報告させていただきたいと思うし、そうした取組を積極的に進めていきたいと考えている。

11:55

[休憩 11:55～13:00]

13:00

◎第11号議案 令和2年度亀岡市一般会計決算認定（産業観光部所管分）
（5款労働費・7款商工費・8款土木費）

[説明]

・産業観光部所管課長順次説明（歳出歳入一括）

13:47

《質疑》

＜赤坂委員長＞

176ページまでで質疑はあるか。

＜木曾委員＞

商工業振興対策経費について、今、説明がざっとあったが、書き切れないので、一覧を出していただきたい。

＜赤坂委員長＞

詳細な資料を出していただけるか。

＜商工観光課長＞

商工業振興対策経費について、実績一覧という形で提出する。

＜木曾委員＞

観光推進経費についても、事務事業評価の事業を抜いて、一覧表を出していただきたい。私は去年も感じていたが、正直言ってここがメインであり、金額も大きいので、詳しく我々に分かるような資料の提出をお願いする。我々はチェック機関の議会として、本当に正しく使われたかどうか審査するに当たって、この内容の資料だけでは不親切だと思う。もっと詳しく出していただきたい。でないと審査できない。委員長、それをよろしく願います。

＜赤坂委員長＞

商工業振興対策経費と観光推進経費について、詳細な資料を出していただきたい。資料を出していただくので、この2つの経費を飛ばして、質疑をお願いします。

＜菱田委員＞

商工業振興対策経費の雑入、支援金収入の詳細な説明をお願いします。

＜商工観光課長＞

飲食店等支援事業補助金について、クラウドファンディングを活用して事業者支援を行ったが、そのクラウドファンディングで支援者から集めたお金が支援金収入1,010万4,000円としてあげているものである。

＜赤坂委員長＞

179～182ページで質疑はあるか。

<木曾委員>

「麒麟がくる」推進事業経費について、合計で幾ら実行委員会に支払われたのか。

<赤坂委員長>

計算に時間がかかるようなので、後ほど聞く。ほかに質疑はあるか。

<木曾委員>

決して、皆さんが悪かったわけではないが、市民から見れば、「無料券等いろいろなものを配ったが、これだけしか来なかったのか」となってしまう。いろいろなことをやった結果としても、ドラマ館に来た人がこれだけというのは、もうほとんど来なかったと言っても過言ではないと思う。事業計画を立てていくときには慎重に考えていく必要があるし、実行委員会にも責任を持ってもらわないといけない。また、亀岡商工会議所から借りた3,000万円は返したのか。そういうことも含めてきちっと報告していただきたい。

<商工観光課主幹>

市議会の場で正式に全ての資料を提出したわけではないが、市議会議長にも市議会から構成員になっていただいた。実行委員会の中において、決算関係については御審議を賜り、最終決算を固めた上で、実行委員会を解散した。

<木曾委員>

言われることは分かる。実行委員会の中に議長が入っているのだから、市議会もそれでよいというのであれば、この決算書は要らないことになる。私が言っているのは、そうではなく、全体としてどうだったのか、説明できるはずであるということである。別に悪かったという話ではなく、どうだったのかを踏まえて、今後のこともあるので、そういう話を聞いているわけである。そののところをしっかりと踏まえた中で、これは決算書であり、あくまでも、決算の最後の部分でこれだけのお金っていくわけであるので、その内容をきちっと説明してほしい。そうでないと審査できないが、分かっていただけか。

<産業観光部長>

今、木曾委員がおっしゃる議会への報告は理解できるので、実行委員会で6月に整理したものを報告させていただく。

<藤本委員>

「麒麟がくる」推進事業費は、2億2,700万円をかけているわけであるが、結局この内容は国庫支出金で、地方創生推進交付金1,000万円、地方創生臨時交付金1億1,000万円、クラウドファンディングの企業からの献金が1億円で、2億2,000万円は寄附等で賄ってしまっているの、目標は50万人と言っていて、結果10万人しか入らなかったが、予算としては赤字を出したわけではないという考え方でよいのか。

<木曾委員>

実行委員会がお金を出したわけではなく、藤本委員が言われたように、全部国の交付金やふるさと納税で賄っているの、報告をしっかりとおかないと駄目である。決算に向けて、「麒麟がくる」大河ドラマ館をここでやると言った以上は、市民に対しても、しっかりと報告をしなければならない。「2億円もかけて、全て税金で賄うのか」「見通しが甘かったのではないのか」と言われる。こうなるとは予想できなかったの、仕方がない部分はあるが、それ

は反省も含めて、こういう結果になったということを明らかにしておかないと駄目である。

<赤坂委員長>

決算に出ている以上は、説明いただきたい。

<商工観光課長>

「麒麟がくる」推進事業経費についても、先ほどの商工業振興対策経費や観光推進経費と併せて詳細な説明資料を提出する。

<赤坂委員長>

明日の午後に資料を提出の上、説明いただけるか。

<産業観光部長>

承知した。

14:05

[休憩 14:05～14:15]

14:15

4 事務事業評価

[産業観光部入室]

[昨日の事務事業評価「観光推進経費（外国人観光客向け観光案内所窓口強化業務委託料）」について再協議・再評価]

<赤坂委員長>

本日の事務事業評価を行う前に、昨日、事務事業評価を行った外国人観光客向け観光案内所窓口強化事業について、私も見落としていたが、令和3年度予算に同じ金額が入っている。これは、どのような予算になっているのか説明をお願いしたい。

<商工観光課長>

外国人観光客向け観光案内所窓口強化事業について、確認を怠っており申し訳なかった。令和3年度については、「外国人観光客向け」という言葉をとって、観光案内所窓口強化業務委託料として、地方創生推進交付金の対象外となり、一般財源のみで業務委託させていただいている。

<田中委員>

交付金の対象にならない事業ということでよいのか。

<商工観光課長>

そのとおりである。

<木曾委員>

前年度に実績がなかったから、対象にならなくなったのか。

<商工観光課長>

地方創生推進交付金については、5年計画となっており、昨年度に5年目の最終年を迎えて、今年度からは交付対象が変わって、対象にならなくなったということである。

<赤坂委員長>

それを昨日のうちに説明してほしかった。昨日の事務事業評価で、40点で課題があるとなったがどうなのか。思い込んでしまっていた、私たちの責任もあるが、全て一般財源から支出となると、インバウンドの効果もなく、外国の方も来られないのに、英語の強化は本当に必要なのか。

<商工観光課長>

令和3年度は、いろいろな方が来られており、推測の話にしかならないが、外国人の方も一部来られているという中で、一定スキルのある方を置かせていただいて、いろいろな対応ができる質の高い観光窓口業務を設置して進めていきたいと考えている。

<赤坂委員長>

昨日、観光入込客数の表を頂いたが、ゼロばかりだったので、質の高い窓口の前に、人が来ていないので、何か違う方法を考えて、別のところに配置するほうがよいと思う。昨日の総合評価の見直しが必要だと考えるが、意見はないか。

<木曾委員>

令和2年度の評価は今、ここでしているが、もう既に行政としてはその評価を出して、事業の名称も変えて、同じ人員で、同じような形の中で予算を確保して、一般財源でいくという判定をしているということか。我々が判断する前に、聞く耳持たずの話かどうかは別にとしても、それはひどいと思う。それならば、当初予算の説明の際に、きちっとその話はすべきであったと思う。「去年はこうであったが、今年是这样い内容で、決算のときには説明するが」ということで話をしておいてもらえばまだ理解できる。先に行政の判断でこういう予算を横滑りさせて、補助金がないにもかかわらず、また同じような取組をしようとしているとしか考えられない。一般財源はもっと重いのではないのか。

<赤坂委員長>

それは今度の予算のときに、判定するというところで、決算については、総合評価を出さなければならないので、昨日「見直しの上継続」となったが、そのままでもいいか。

<木曾委員>

外国人観光客向け観光案内所窓口強化事業は廃止になっているので、廃止でよいのではないか。

<藤本委員>

外国人観光客向けの補助金はなくなったので、廃止になる。ただ、なくなったからといって、そこに有能なアルバイトの人が来ておられると思うので、ただ単に予算を横滑りさせて、「外国人」という名称を外して予算を組んだのか、それとも、「外国人」を外すが、観光窓口を強化していこうと思えば、今来ていただいている有能なアルバイトの人が必要であり、単なる外国人の案内だけではなく、観光窓口の強化のためにはどうしても必要なもので、引き続いて来ていただきたいという思いで、予算をつけたのか。その思いはどうか。

<商工観光課長>

窓口の充実という意味合いで、今後も、今お世話になっているスタッフの方に

引き続き来ていただきたいという思いで予算を確保しているところである。

<田中委員>

その人たちの雇用が必要であるから窓口をつくるのではおかしい。観光案内所を強化するためにこの事業が必要なので、これだけのお金が必要である。そのために5人には、継続してもらおうということでない、後先が反対だと思う。人を雇用していくために窓口を強化するのではないと思うし、雇用対策だけでは違うと思う。

<菱田委員>

トロッコ亀岡駅とJR亀岡駅の観光案内所には、合わせて5人のスタッフがいるということによいか。

<商工観光課長>

トロッコ亀岡駅については、常時1名と代わりとして、もう1名いる。かめまるマートのJR亀岡駅については、外国人に対応できる、観光案内に資するスタッフが常時2名と、販売を主にする嘱託職員が1名いる。

<菱田委員>

この5人は、今まで外国人観光客の対応の経験を生かして、令和3年度も含めて今後も活躍していただきたい。そのための窓口強化であると言ってもらえれば理解できるが、制度は変わったが、そのまま雇うという言い方であれば理解しにくいところである。

<商工観光課長>

スキルのある方を確保するのは大変なところであり、今、お世話になっている方のスキルは必要とされる。観光窓口事業においては、その方たちを継続して雇い、窓口を充実させていきたいという思いである。

<菱田委員>

窓口対応がないなら、それ以外の仕事をしてもらえるようなこと、例えば、昨日は翻訳業務をしてもらっているという話もあったが、それ以外にいろいろな仕事をしてもらって、そこにいるだけではなく、窓口対応がないときの仕事を提供するのが本来雇用側の仕事だと思うがどうか。

<商工観光課長>

手が空いているときには違う業務をしていただくというところで、その一つが昨日の翻訳作業になってくるが、あと例えばホームページの内容の確認等、できる範囲でお世話いただいているところである。

<赤坂委員長>

課長が言われていることは分かっている。もっといろいろなことをやれば、インバウンドが戻ってきたときに、また仕掛けもできるのである。実際に我々が視察に行ったときに、ぼっと立っていて、遊んでいる状態が現実なのかと思った。今はこういう状況だからこうしていかなければならないということがあると思う。雇用のやり方も考えながら、今後の勉強をしながら、観光客が戻ってくる前に、段取りを組むのも大体分かってくると思うので、今は、必要ではないと、委員の皆さんはおっしゃっている。

<木曾委員>

課長、あなたが会社の社長だったらどうするのか。これだけの観光客しか来ていないのに、それだけのスタッフを雇えるのか。市民の人はそのように見ている。令和元年度ぐらい観光客が来ていれば、必要だったかも分からないが、

今は1.7%しか観光客が来ていないのに、令和3年度も同じようなスタッフをそろえているような会社なら潰れる。商工観光課は、経済に関わる仕事をしてるのだから、もう少し実情に合った市民感覚で考えていただきたい。公務員だから、公がやっているのだから、多少は仕方がないという思いでいるのか。今、市民は大変苦しい状況の中で、事業をやっておられる。我々自身も本当によいのかということをお問われるときにきている。そこで今審査をしているので、もう少しシビアに考えて、雇用を計画している会社の社長ならばどうするのか、自分のお金ならばどうするかと考えたときに、これはまずいと思えば少し見直しをすとか、いろいろなことをやっていかないと、税金だから、人のお金だからどうでもよいと思っておられるように感じる。市民から、行政や我々議員に対する見方もそのように見られる。だから、シビアにやっていかなければならないと思うがどうか。もし課長が、会社の社長だったらこのようにできるのか。

<赤坂委員長>

部長、1,250万円かかるということを入れてお答えいただきたい。

<産業観光部長>

昨日からいろいろと御意見をいただいております、先ほど課長が言っているような形で、よいときにはやはりこれだけの人が必要であった。今は、コロナの関係で悪くなっている状況はあるが、皆さんからいろいろと意見をいただく中で、おっしゃっていることも分かるので、その辺も踏まえながら、これから予算をつくるときにはその分を反映していくようにしていかなければならないと感じたところである。

<木曾委員>

去年やっていたから今年もやるという前例を踏襲した形の中で、予算編成をするからこういうことになってしまうのである。やっぱりもっと根本的に、事業がなくなれば、一回ゼロベースで考えて、それからどのようにあるべきかということをしっかり建て直して、今の時代に見合った中でやっていかないといけないと思う。1年間丸々去年は潰れて、厳しい状況になってしまったのだから、今年はどうなるかということも継続しているのなら考えていかなければならない。その辺が全くできていないから、このようなことになったのではないのか。去年やったことを今年もやればよいということではないと思う。その分の見直しをしっかりとしない限り、評価はできない。

<赤坂委員長>

もう一度、外国人観光客向け観光案内所窓口強化業務委託料の事務事業評価を行うので、順次点数の報告をお願いします。

・奥野副委員長

必要性：2点、妥当性：0点、効率性・費用対効果：0点、成果：0点

・田中委員

必要性：1点、妥当性：1点、効率性・費用対効果：1点、成果：1点

・小川委員

必要性：3点、妥当性：0点、効率性・費用対効果：0点、成果：0点

- ・藤本委員
必要性：2点、妥当性：2点、効率性・費用対効果：1点、成果：1点
- ・木曾委員
必要性：0点、妥当性：0点、効率性・費用対効果：0点、成果：0点
- ・菱田委員
必要性：1点、妥当性：1点、効率性・費用対効果：0点、成果：0点

14：44

《総合評価結果のまとめ》

＜赤坂委員長＞

各委員の点数を合計して、100点換算した結果、分科会としての点数は14点となり、評価基準は「1かなり問題がある」となった。この評価点数・評価基準を踏まえて、総合評価結果について協議を行いたいと思うが、意見はあるか。

＜田中委員＞

見直しの上縮小になるのではないか。

＜小川委員＞

見直しの上縮小でよい。

＜赤坂委員長＞

委員会としてまとめると、観光推進経費（外国人観光客向け観光案内所窓口強化業務委託料）について、「4見直しの上縮小」でお願いしたい。意見等については、有能な人材を育成するのももちろん必要で、雇用も難しい状況であることは分かっている。できるだけ通常の観光案内に戻す方向に持っていきながら、2人がローテーションを組んだり等、いろいろなやり方があると思うので、雇用対策をしっかり構築していただきたい。委員会としては、このようにまとめたいと思う。文言は正副委員長に一任願う。（了）

14：49

- (1) 観光推進経費（亀岡市観光協会運営費補助経費）
- (2) 観光推進経費（亀岡市観光協会宣伝事業等補助経費）

- ・商工観光課長 資料に基づき（1）（2）についてまとめて説明

14：54

《質疑》

＜木曾委員＞

以前、亀岡市観光協会と意見交換をしたときに、亀岡市の観光入込客数について、亀岡市のデータに基づいて、発表していると言われていたが、亀岡市に観光入込客数の詳細なデータをとれるところがあるのか。何をもって観光入込客数のデータをカウントしているのか。そのデータを基に、いろいろな補

助金等が決まってくると思うが、数字の根拠を教えてください。

<商工観光課長>

観光入込客数や観光消費額については、四半期ごとに、それぞれの観光地に照会をかけさせていただいており、それを発表させていただいている。今、どこに照会をかけているというリストは持っていないので、後ほど報告させていただいてよいか。

<赤坂委員長>

今、持って来られるか。

<商工観光課長>

準備する。

<赤坂委員長>

根本的にデータ等は、亀岡市観光協会に委託してやってもらうのではないのか。

<小川委員>

市からの提供だけではなくて、亀岡市観光協会も観光入込客数等は意識してやって、お互いが意識してやっていかないとなかなか厳しいと思う。

<木曾委員>

企業の景気判断でも、亀岡商工会議所に全て丸投げである。亀岡市が一回でもそのようなデータをとったことはないし、丸投げである。町の中にあるいろいろなポイントのところに、何人来られたかというデータをもらう。それを、観光入込客数と対外的に大きな顔をして言うのは、不思議である。そうではなく、ちゃんと自分たちが訪問して、いろいろなところで、実際の入込客数をカウントしたりすることによって、経済効果をつかんでいくことになると思う。全て100%お任せの中の数字を根拠にした予算になってしまっているのではなかと心配する。

<産業観光部長>

観光入込客数を出すのに、その地区で一番多く行きそうなところをポイントとして、そこにどのぐらいの観光客が来られたという判断をしていると聞いている。今後は、市のほうもそのような形で、調べもしていきたいし、また、亀岡市観光協会にも伝える中で、より正確な数を押しえられるように進めていきたいと思う。

<木曾委員>

例えば、トロッコ列車で来られた方がどのような消費行動を起こして、亀岡にどのような経済効果があったのか分かるか。

<産業観光部長>

今のデータではとそこまでつかみ切れないところがあるかもしれないので、そういうようなことが分かるような形で、観光入込客数を確認できるように検討していきたいと思う。

<木曾委員>

トロッコ列車で来ている、例えば200万人のうち、何人がトロッコ列車だけ乗って、トロッコ列車で帰っているのか。トロッコ列車で降りて、湯の花温泉に何人行っているのか。トロッコ列車から降りて、保津川下りでそのまま帰る人、または、それ以外の人がどのぐらいいるのか、それらをつかまないと経済効果は現れないのではないのか。来た人だけのカウントで、150万人来たといって、それで経済効果はあるという判断はできない。実数をつか

まないと駄目である。トロッコ列車で帰る人の経済効果は、嵯峨野観光鉄道にしかないのである。嵯峨野観光鉄道の本社は京都市にあるので、税収は亀岡市に落ちない。市外の経済効果を合わせて、亀岡の経済効果として、観光の予算が組み込まれている。一番大きいトロッコ列車を基にして、観光全体の予算をつくるということはどうなのか。

<商工観光課長>

おっしゃっていることは重々承知した。なかなか、難しいところもあるが、昨年からレンタサイクルをやらせてもらっており、どのような周遊をされたか、どこかへ寄られたか等のデータがとれるようになった。今年度、交通事業者による観光庁の事業である観光M a a Sを活用する中で、もう少しデータ活用も生かしつつ、今御指摘のあったような、もっと明確な行動パターンや消費パターンが追えるような形を目指して、亀岡市観光協会と詰めていきたいと思う。

<菱田委員>

戦術と戦略が全然練れていないと私は感じる。放っておいてもお客さんが来ていたコロナ以前の感覚がそのまま残っていて、今までどおりだと思って今までどおりにやっていたら駄目であると思う。結局観光に対する戦略がないからそうなると思う。戦術の部分で、これからどうしていくのかお聞きしたいが、この評価資料の今後の課題に、どちらもウィズコロナ、アフターコロナということ掲げている。これをどうしていくか、これから1年かかるか、1年半かかるか分からないが、観光客が戻ってくるまでの間に、いかに亀岡の観光をアピールしていくか、戻ってきたときにどんと亀岡に来るか、結局京都市に集中してこないかというところの違いが出てくると思う。それをやはり行政として亀岡市観光協会に提案し、亀岡市観光協会も本気になって、それに取り組んでもらうという仕掛けが必要だと思うがどうか。

<商工観光課長>

インバウンドがいつ回復するかというところで、まだ来年回復するか、見通しは多分立たないと思う。今、マイクロツーリズムは日本人をターゲットにした近場の観光ということで、この亀岡にあっては、自然豊かな地域でもあるし、特に感染という意味合いでは、屋外での事業といったところが大変人気がある。そういったものもコンテンツとして造成して、できるところから対策を練って、行く行くはインバウンドを目指しての対策が必要になってくると思うが、まずは、マイクロツーリズムを主に考えて、対策を練っていきたいと思っている。

<菱田委員>

具体的にどのような対策を考えているのか。

<商工観光課長>

今、好まれるのが屋外でのキャンプ等であるし、コロナでいろいろな観光地、特に屋内については大きなダメージを受けている。昨年も屋外のコスモス園やききょうの里については、できるだけ開園して、また感染対策を取って運用してきたところである。亀岡市が持つ自然の強みを中心に、まずは誘客を図っていければと考えている。

<菱田委員>

亀岡市の持つ自然のすばらしさはいろいろあるが、それをどのようにしてマイ

クロツーリズムで、亀岡に行ってみようと思ってもらえる仕掛けが大事だと思う。そこが今後の課題解決に向かう部分だと思う。先ほど観光案内所の方の話があったが、そういう人たちならではの観光地を発掘してもらって、例えば亀岡市のラインに載せる。そうすれば、その動画を見て、「ああ、亀岡、こんないいところがあったのか、友達に教えてあげよう」「今度友達が来たら連れて行ってあげよう」というところから始めなければならないと思うし、そのような工夫が欲しいと思う。

<田中委員>

評価資料の中から、緊急雇用は何人になったのか。

<商工観光課長>

緊急雇用等は、雇用対策の一環で、亀岡市観光協会にお世話になり、3名の方を作業員という形で雇用したところである。

<赤坂委員長>

いろいろ弁解されるが、結局何もできていなかったのである。先日、亀岡市観光協会に視察に行ったが、ほとんど人件費であった。生かされていない。普通は、観光入込客数もそうであるが、亀岡に来られたら、必ず泊まって、夜も観光してもらわなければならないが、全く何もどこもない。そういうところを根本的に考えていかなければ、今は反省の時期に来ているのではないのか。観光の専門家もいない。そういうところをしっかりと監視していないのでこういう結果になっている。だから、反省や言い訳ではなく、今後どうしていくかということが非常に大切で、丸投げしていた部分をどうしていくのかということが大切な部分だと思う。亀岡にはすばらしいところがいっぱいあるのに、なぜつなげないのかということである。最後に、部長、前向きな話をしていただきたい。

<産業観光部長>

いろいろと観光について御意見をいただいたので、市のほうとしても一度先進地等のよい事例を勉強していくことも大切だと思うし、亀岡のよさを生かす中で、亀岡市観光協会や森の京都DMO等の関係機関と連携して、亀岡の観光をもう一度改めて考えながら、真剣に取り組んでいきたいと思っている。

<赤坂委員長>

お金を出して、もう任せているから知らないではやっぱり駄目である。

<木曾委員>

亀岡市観光協会への補助金が令和2年度は多くなっているが、何に充てて、そのことによってどのような効果があったのか。

<商工観光課長>

令和2年度については、大河ドラマ館の関係もあって、臨時の窓口を設けるなど、光秀に関わる業務が増えた。令和3年度については、その分がなくなるので少なくなっている。

<赤坂委員長>

これからは今後のことも考えて、今までは、恐らく補助金を出せばそれっきりなので、一切知らないのである。それで、書類が来て、「ああ、なるほど」と分かることだけのことなので、そのところも踏まえて、今後のことも考えて、事務事業評価をしていただきたいと思う。それでは、観光推進経費の亀岡市観光協会運営費補助経費から、点数をつけていただきたい。

(1) 観光推進経費（亀岡市観光協会運営費補助経費）

《評価》

＜赤坂委員長＞

これより、評価を行う。各委員は個人採点について、順次報告を願う。

・奥野副委員長

必要性：4点、妥当性：4点、効率性・費用対効果：2点、成果：2点

・田中委員

必要性：2点、妥当性：1点、効率性・費用対効果：1点、成果：1点

・小川委員

必要性：3点、妥当性：2点、効率性・費用対効果：2点、成果：2点

・藤本委員

必要性：3点、妥当性：3点、効率性・費用対効果：2点、成果：2点

・木曾委員

必要性：2点、妥当性：2点、効率性・費用対効果：1点、成果：1点

・菱田委員

必要性：3点、妥当性：3点、効率性・費用対効果：2点、成果：2点

《総合評価結果のまとめ》

＜赤坂委員長＞

各委員の点数を合計して、100点換算した結果、分科会としての点数は43点となり、評価基準は「2課題がある」となった。この評価点数・評価基準を踏まえて、総合評価結果について協議を行いたいと思うが、意見はあるか。

＜木曾委員＞

きちっとしたデータをとって、根拠を示して、観光入込客数も含めて、施策を充実させていき、予算を計上しない限り、この問題は解決しないかと思う。まず、お任せではなしに、自分たちが率先して、そのことに関わっていくという姿勢があると、各関係課とも連携をとってできるようになってくると思う。

＜藤本委員＞

観光入込客数を正確に掌握して、観光戦略を組めていない。亀岡にホテルを誘致しても人が来ない。さらには、道路整備、森林地域からの整備、市内の整備、城下町の無電柱化等、いっぱい手を打っているのだから、そういうことをやって初めて戦略として、亀岡を観光地として押し込んでいこうというようなものがでると思う。その時々全体の金銭が幾らだったと見て、そのままつなげておくとか、そういうやり方をしても絶対に発展しない。必ずまちづくりとも関連して、その中で観光政策を、宿泊型観光なら、宿泊型観

光にどうすればしていけるかということを経済戦略でもっていかないと、弱いのではないかと思う。

<木曾委員>

ユメミファクトリーを学ぶべきである。あれだけの収益を持って、田舎の中でできる観光事業をやっておられる。そこをもっと前向きに、貸して金だけとればよいという考え方ではなく、もっと学ぶ姿勢を持ったら、いろいろなノウハウを教えてくれると思う。「亀岡市は水くさい。家賃だけとりにくる。何の話も聞かない。協力してくれと言っても、何も協力してくれない」というのが現状で、周りの野菜等も供給しておられ、あの地域の人も含めて貢献されている。そこをもっと考えて、そのためにはどういうノウハウを持ってやっておられるのかということを経済すべきである。あそこはあれ以上大きくしたかったが、できないから、今、京丹波町でやられている。京丹波町ではもう少しスケールが大きく、恐らくあそこはまた成功する。だから、そういうようなものを逃がしてしまったということで、亀岡市には本当に戦略がないと思う。

<小川委員>

亀岡市観光協会と森の京都DMOとの連携が見えないので、しっかり連携して、見えるようにしていただければ、恐らく変わると思うのでよろしく願います。

<赤坂委員長>

総合評価について意見はあるか。

<小川委員>

亀岡市観光協会にお世話になってやっていかなければならないと思うので、見直しの上継続で願います。

<赤坂委員長>

見直しの上継続とする。先ほど木曾委員からユメミファクトリーの話があったが、あのようなどころを活用して、行政も観光に関しては同じ目線でやっていかないことには駄目だと思う。だから、ときには下から、ときには同じ目線でといくことは非常に大切だと思う。スタジアムができて、サッカーを見て帰ってしまうだけなので、亀岡の経済効果は上がらない。やっぱり泊まっていたり、夜遊んでいただいて初めてよくなるので、そのようなことを意見、改善点としてしっかり書かせていただく。文言は正副委員長に一任願う。続いて、亀岡市観光協会宣伝事業等補助経費の採点をお願いする。

15 : 25

(2) 観光推進経費（亀岡市観光協会宣伝事業等補助経費）

《評価》

<赤坂委員長>

これより、評価を行う。各委員は個人採点について、順次報告を願う。

・奥野副委員長

必要性：3点、妥当性：3点、効率性・費用対効果：2点、成果：2点

- ・田中委員
必要性：2点、妥当性：1点、効率性・費用対効果：1点、成果：1点
- ・小川委員
必要性：3点、妥当性：3点、効率性・費用対効果：2点、成果：2点
- ・藤本委員
必要性：3点、妥当性：3点、効率性・費用対効果：2点、成果：1点
- ・木曾委員
必要性：2点、妥当性：2点、効率性・費用対効果：2点、成果：2点
- ・菱田委員
必要性：3点、妥当性：3点、効率性・費用対効果：2点、成果：2点

《総合評価結果のまとめ》

＜赤坂委員長＞

各委員の点数を合計した結果、分科会としての点数は43点となり、評価基準は「2課題がある」となった。この評価点数・評価基準を踏まえて、総合評価結果について協議を行いたいと思うが、意見はあるか。

＜奥野委員＞

現地視察に行かせてもらったが、まずこれからというのが、駅にある案内所と売店である。本当に工夫していないと、何を売っているか分からない。大体電車待ちの時間に売店に寄ろうかというのが通常の観光客である。宣伝効果ということからすると、見直していける部分であるし、目の前のことから見直していく必要があると思う。限られたスペースなので、大変だとは思いますが、品物をレイアウトする専門家もおられるので、相談しながら、宣伝効果を上げていく。パンフレットを置いて、亀岡の周りに何があるのか、行ってみようとなるような雰囲気観光案内所であり、土産物売場であるように今後考えてほしいと思う。

＜菱田委員＞

亀岡市観光協会の宣伝事業なので、亀岡の観光をどうしていくのかという戦略をしっかりとつくれる組織をつくってもらわないといけない。絶えず戦略を見直していく。先ほど木曾委員がおっしゃったように、トロッコ列車で来た人がどのような消費行動をしているのか。トロッコ列車で来て、バスに乗って、京都市内に戻るのなら何もならない。例えばそういうことを分析しながら、この人たちの足を止めるためには、この人たちの志向からいけばどこへ、どのように誘客していくのか。そのためにはどこへ攻めていくか、バス会社がよいのか、個人的に攻めていくのか、いろんな考え方があ、それが戦術なのである。そういうことができるような宣伝事業であってほしいし、そのためにちょっと去年より予算が増えたとしても私は認めると思う。待つのではなく、攻めの観光をしてほしい。

＜木曾委員＞

今おっしゃったとおりで、トロッコ列車から来て、バスでそのまま戻る可能性がある。そのときに、亀岡のこういう場所に行ったら、これだけ割引がある、こういう特典がるとか、バス会社と提携したりして、いろいろなところへ寄

ってもらって、観光客にできるだけお金を落としてもらって戦略を立てていくべきである。バス会社や旅行社とうまくコラボさせてやっていって、そういう観光と消費をしてもらえるツールをつくっていくことを考えていけば、観光宣伝にお金を入れれば効果が出てくるのではないかと思う。そういった練り上げた戦略をもっと考えていかなければならないと思う。

<藤本委員>

この観光宣伝費自体は小冊子の製作等をやっているのですが、実質、亀岡の戦略として、宿泊や観光、スタジアムに来た方がお金を落とせる仕掛け等につながっていないと思う。また、せつかくのシティプロモーションが効果を生んでいない。そこが効果を発揮すれば、宿泊型観光にもつながっていくし、ふるさと納税の増加にもつながっていくと思う。その辺が全然目に見えて成果が出てきているという感じがしないので、やっぱり大事なことは、しっかりと戦略がないと救いようがない。目先のことで何人観光客が来た、少なかった、これだけ来たというような話ばかりになってしまうので、もう少し将来ビジョンをまちづくりも含めてやっていただく必要があると思う。

<田中委員>

部長はトロッコ亀岡駅で降りたら、亀岡市内のどこへ行きたいか。

<産業観光部長>

トロッコ列車で来たとすれば、JR亀岡駅に一旦行って、観光パンフレット等もあるので、亀岡城址に行ったり、サッカーを見たり、湯の花温泉にも泊まりたいし、最後は保津川下りしたいと思う。今後、観光については、いろいろと先ほどから意見をいただいているように、戦略や関係機関等との連携が大切になってくるので、亀岡市観光協会や森の京都DMOとも連携しながらやっていきたいと思う。

<木曾委員>

観光については、トロッコ列車や保津川下り、湯の花温泉でも確かに対策をいろいろ考えてやっているが、かなり厳しい状況である。その実態もしっかりつかんで、何が本当に必要な支援なのかを考えていかないと、次の戦略に結びついていかない。そういうところも観光の宣伝に、どのように結びつけてうまくやっていけるのかということ、次のウィズコロナ対策も含めてやっていかなければならないと思う。まずは現状をしっかりと、部長、各旅館や保津川遊船企業組合、トロッコ列車等に一回行って、しっかりと自分の耳で聞いて、肌で感じて、どういうことをやっているのかということ把握していただきたい。今、保津川遊船企業組合の船頭さんは補助金をもらっておられるけど、補助金だけでは生活できないから、よそへ働きに行っておられる。本当に保津川遊船企業組合がこれからも安定してやっていけるのか心配になる。そのような実態をもっと市役所が知っておかないといけないと思う。機会があれば行っていただきたい。

<赤坂委員長>

総合評価は、見直しの上継続でよろしいか。

(全員了)

<赤坂委員長>

意見・改善点として、正確な戦略が立てられる人材と組織づくりが大切だと思う。観光宣伝に対しても、やっぱり人が来て喜ばれる仕組みづくりが必要で

ある。産業建設常任委員会でもしっかり研究していきたいと思う。今後、どのようにして観光地の魅力を出していくのか、駅には温泉の宣伝が一つもない。亀岡市観光協会に任せっきりにしたことがそのようになってしまったと思う。課長が悪いと言っているわけではない。課長もやりやすいような形にしていきたいし、お客さんが来たときに喜んでもらえるようなまちづくりをしたいということで、みんな一丸となって頑張っけてやっていきたいと思う。亀岡市観光協会に任せるにしても、しっかりこれはやっていただきたいというところを一緒に提案していきたいと思う。意見・改善点について、文言は正副委員長に一任願う。

(全員了)

<事務局主任>

観光入込客数と観光消費額の根拠資料を頂いたので配布させていただきます。

～散会 15:47